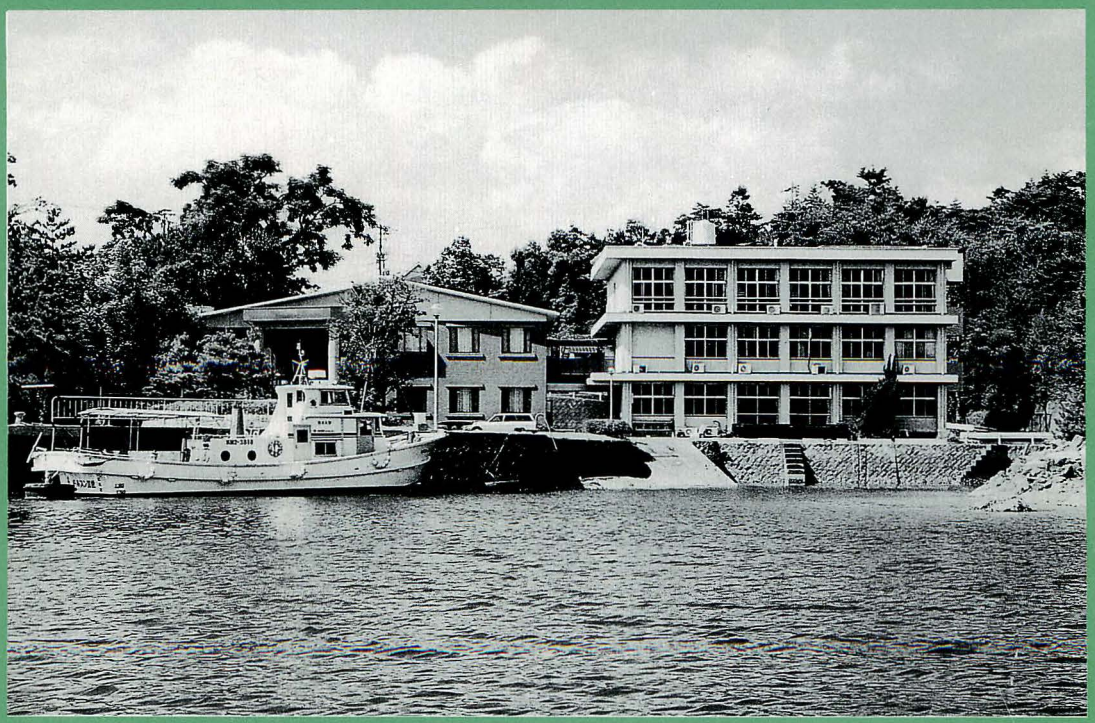
CALANUS

2001
No.13

Bulletin of the Aitsu Marine Biological Station,
Kumamoto University, Japan



ISSN 0288−6243

合津臨海実験所報　No.13

Explanation of cover picture

A view of the Aitsu Marine Biological Station

Dr. Junji Oyama (1894-1979) was the first professor of the Department of Biology at Kumamoto University, where his specialty was the morphology of salamanders. He believed that a marine biological laboratory was essential to the Department of Biology, as a center for study and education on marine animals, and he visited the local government in Amakusa to ask for its cooperation. His idea was strongly supported by Hatsuki Nishimoto, the mayor of Imatsu village at that time, and in 1952 the Imatsu village government kindly donated 3,731 m^2 of land and a building to Kumamoto University. The Ministry of Education accepted the laboratory as an institution belonging to Kumamoto University in 1954, and the Aitsu Marine Biological Station was formally established.
The present station has three buildings, with a total floor area of 1,642 m^2, and two boats. (The photograph shows two of the buildings and one of the boats.)

表紙説明

合津臨海実験所の建物と船

195 4 年に合津臨海実験所が公式に発足してから，46 年が経過した．生物教室の初代教授の小山準二の熱意と地元の今津村の絶大な協力の賜物であった．現有地の大部分を占める 3,731 m^2 の土地は今津村から寄贈された．また，172 m^2 の建物も寄贈された．（この建物は現在は無い．）

今津村は今泉，合津の 2 部落で構成されていた．各大学の臨海実験所を区別するために，地名を用いることは慣習的に行われている．それに従って合津臨海実験所の名前が用いられている．熊本大学における公式の名前は熊本大学理学部附属臨海実験所で，合津の地名は無いが，英語では Aitsu Marine Biological Sation である．今津村はその後に隣接していた教良木村，阿村と 1955 年に合併して，現在は松島町の一部となっている．現在の土地が選ばれたのは，当時熊本大学で教務員として解剖の実習を担当していた古沢滝太郎氏のお陰であった．古沢氏は東京帝国大学の理学部動物学教室を卒業すると，熊本医科大学に予科の教授として赴任した．しかし，予科が廃止されたために失職し，私立女学校の教諭などをして生計を立てていた．小山教授は東大では古沢氏の後輩であり，勤務年数の不足で年金が支給されない古沢氏に同情して，生物教室に迎えた．職としては低くても，熊大に勤務すれば，やがて年金を貰えるようになるからであった．

古沢氏は魚釣りが趣味で，合津付近の地理にも明るかった．そして，小山教授から依頼され，現在の地を選定した．船着き場を設けるのに適した場所で，湧き水もあることが理由であった．発足当初の実験所には電気も水道も無く，湧き水に頼り，石油ランプが照明であった．当時は天草五橋はごく一部の人の夢に過ぎず，橋によって天草が本土と結ばれることを考えていた人などほとんどいなかった．天草五橋の開通で，合津臨海実験所は国道のすぐ近くの至便な地に位置することになった．現在の実験所の発展は古沢氏の土地選定に負うところが少なくない．

合津臨海実験所は平成 13 年度から全学共同利用の『熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター』の『合津マリンステーション』へ組織替えすることになっている．

写真に示すのは合津臨海実験所の実習研究棟（左）と研究宿泊棟（右）である．これらの他に飼育棟がある．専用船着き場には実習採集船のドルフィンⅡ世号が係留されている．